

高浜1号機が世界一

プラッツ社調べ 2010年設備利用率

米国プラッツ社発行の原子力専門誌「ニューク・レオニクス・ウィーク」は六月九日号で、二〇一〇年の世界の原子力発電量は昨年より三・四％増加した。主に総出力四百二十・八万kWの新規炉、総計四十三・

〇年の世界の原子力発電量トップ50を発表した。設備利用率では、関西電力高浜1号機(PWR、八十二・六万kW)が一〇四・六九％で世界一に輝いた。同ランキングでは、北海道電力泊3号機が一〇三・〇八％で四位に、九州電力玄海2号機が一〇二・八八％で五位にランクインし、日本の発電所三基が十位以内に入ったほか、東北電力東通1号が九九・九九％で十九位となった。

二〇一〇年の世界の原子力発電量は昨年より三・四％増加した。主に総出力四百二十・八万kWの新規炉、総計四十三・

作業ロボット等 公開特許資料集

出版社のテアールエスは、図説を含んだ公開特許資料集を販売している。

七万kWの出力増強、長期間停止していた炉の復帰などによる。二〇〇九年の同ランキングでも、川内1号機が一〇五・〇％で世界一を記録し、ほかに高浜4号機、伊方3号機、泊1号機、四基がベストテン入りしたのをはしめとして、計八基の日本の原子炉がベスト五十に入っていた。

三菱重工、東芝等の出願会社による三十三件の出願を掲載している。問合わせ、注文は「放射性物質処理用グロブボックス」平成五年(一九九三年)版(四万九千三百五十円)には、東芝、三菱重工等の出願会社による三十五件、平成十三年(一九九九年)版(五万九千八百五十円)には、石川島播磨重工業、日立製作所等の出願会社による三十三件、平成二十二年(一九九八年)版(五万九千八百五十円)には、石川島播磨重工業、日立製作所等の出願会社による三十三件、平成二十二年(一九九八年)版(五万九千八百五十円)には、

三菱重工、東芝等の出願会社による三十三件の出願を掲載している。問合わせ、注文は「放射性物質処理用グロブボックス」平成五年(一九九三年)版(四万九千三百五十円)には、東芝、三菱重工等の出願会社による三十五件、平成十三年(一九九九年)版(五万九千八百五十円)には、石川島播磨重工業、日立製作所等の出願会社による三十三件、平成二十二年(一九九八年)版(五万九千八百五十円)には、

炉心燃料の把握が課題

ベリホフ総裁 レベル7の事故語る

原産協会は十三日、ロシア国立研究センター「クルチャトフ研究所」のエフゲニー・パロフ

ベリホフ総裁は、「チェルノブイリ原発(旧ソ連製RBMK型炉4号機)の事故は世界の原子力発展にも大きな影響を与えてしまった」と述べ、国際原子力事象尺度(INES)で同じ最悪のレベル7を記録した事故を述べた。一九八六年四月二十六日に事故が発生し、自らも事故三日目に上空のヘリコプターから炉心部を眺め、炉心燃料がすでになくなっていることを確認するなどの経験を通して、一刻も早い事

故収束と周辺地域への放射能影響の低減などに努めた、と述べた。事故当時は、減速材の黒鉛の火災による放射能拡大、水蒸気爆発による放射能拡散などの問題のほか、再臨界の可能性もあり、地下水への汚染の可能性も否定できない状況だった。そうならば、ウクライナだけでなく、欧州全体にも放射能汚染の拡大が心配されたこと

大を防いだ、とした。その年の十一月末には一応、プラント全体を覆うシェルター(いわゆる「石棺」)が完成したものの、内部は外から見ると違って、スマートなものではなく、燃料が溶け金属やコンクリートと混ざって冷え固まってできた溶岩の放射線量は、一時間当たり数千レントゲン(数十Sv/時)と極めて高く、サンプル採取のためには、わずか数秒の時間しか作業ができなかったと振り返った。

最大の課題は、炉心にあった燃料がいったいどこにいったしまったのか、その把握が重要であり、特殊なベリホフや耐放射線ビデオカメラを開発して内部を観察

ベリホフ総裁は、福島事故収束に向けて、チェルノブイリ原発の設計当事者でもあり、事故の収束に大きな力を発揮したクルチャトフ研究所の役割、能力、設備などを紹介し、原子力潜水艦の解体から放射能汚染土壌の除染・処分までの経験を活用できるとした。



チェルノブイリ原発4号機事故の炉心部の写真。全燃料が破壊されたか溶融して、吹き飛んだが原子炉下部に落下した。



原産協会は十三日、ロシア国立研究センター「クルチャトフ研究所」のエフゲニー・パロフ

ベリホフ総裁は、「チェルノブイリ原発(旧ソ連製RBMK型炉4号機)の事故は世界の原子力発展にも大きな影響を与えてしまった」と述べ、国際原子力事象尺度(INES)で同じ最悪のレベル7を記録した事故を述べた。一九八六年四月二十六日に事故が発生し、自らも事故三日目に上空のヘリコプターから炉心部を眺め、炉心燃料がすでになくなっていることを確認するなどの経験を通して、一刻も早い事

最大の課題は、炉心にあった燃料がいったいどこにいったしまったのか、その把握が重要であり、特殊なベリホフや耐放射線ビデオカメラを開発して内部を観察

ベリホフ総裁は、福島事故収束に向けて、チェルノブイリ原発の設計当事者でもあり、事故の収束に大きな力を発揮したクルチャトフ研究所の役割、能力、設備などを紹介し、原子力潜水艦の解体から放射能汚染土壌の除染・処分までの経験を活用できるとした。

今後の世界の原子力発電動向について、ベリホフは「原子力なしでは安定した経済発展はできない」と述べ、「いまはエネルギー危機のさなかにある」と強調した。

TENEX

Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail): info@tenex.co.jp